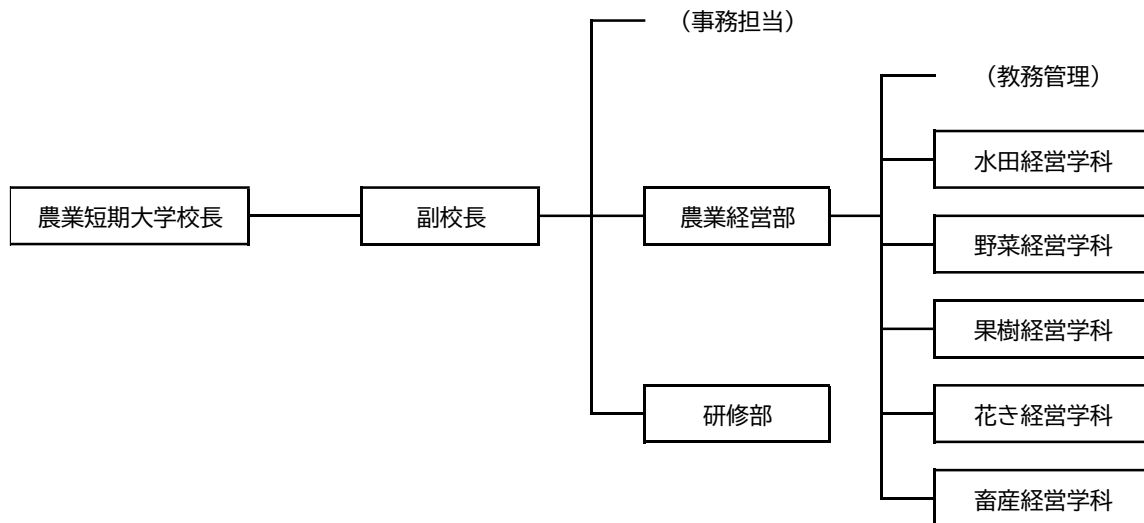


1 農業短期大学の業務実績

(1) 概要

ア 組織



イ 施設

区分	主な施設内容
教育施設	本館(教室、教養ホール、視聴覚教室、職員室、事務室、会議室、講師控室) 研究実験棟(各学科、学科教室(ゼミ室)、実験演習室、研究室、無菌室、培養室) 多目的学習棟(図書室、情報処理演習室、学生ホール) 男子寮(けやき寮)、女子寮(せんだん寮)、食堂、体育館、運動場、テニスコート
実習教育施設	実習教育棟、作業棟(園芸、農産)、機械格納庫、果実選果場、鉄骨ハウス等栽培施設、 乳牛舎、肉牛舎、肥育牛舎、畜産加工演習棟、堆肥舎、パドック、農産物直売所(アグリハウス万菜)
研修施設	研修棟、屋外トイレ 農業機械実習棟(整備実習室)、トラクタ運転練習コース 農産加工技術センター(開発室、発酵加工室、高温加工室、粉体加工室)

(2) 農業経営部の取組

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業に関する講義や実験・演習、実習、研修などの教育を行った。

ア 学生の状況(学年毎の定員、農業経営部 60名)

(ア) 学生数は、1学年45名、2学年48名、合計93名(前年度111名)であり、定員を27名下回った。学生数は、震災後減少しその後は回復傾向にあるが、今後、人口減少による高校改革、少子高齢化などにより定員確保は大きな課題である。

学科別では、水田経営学科28名、野菜経営学科25名、果樹経営学科12名、花き経営学科8名、畜産経営学科20名の在籍数となっている。

出身高校別では、農業課程が62名、普通課程19名、その他が12名であり、農業高校出身の学生が67%となっている。

農家・非農家別では、専業農家19名、兼業農家26名、非農家48名であり、非農家出身の学生は近年5割程度を占めている。

出身地域別では、県北が22名、県中が18名、県南20名、会津15名、南会津2名、相双7名、いわき8名、県外1名であり、各地域からの応募がある。

(イ) 令和4年度の専門士(農業専門課程)の称号が付与される者(卒業生)は、48名であった。

(ウ) 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与者は、1学年5名、2学年5名であった。

(エ) 学生寮の令和4年度の入寮は、2学年は男子25名、女子11名、1学年は男子19名、女子6名であった。

イ 専修教育の状況

(ア) 水田経営学科

JGAPでは、「米(玄米)」、「そば」に加えて、新たに「小麦」で認証を取得した。更新審査に当たっては、講義や実習の中で新たなリスクを評価するとともに、施設及び帳簿の点検作業を行い、学生が主体となって受審した。また、学生8名がJGAP指導員資格を取得した。

スマート農業については、福島大学食農学類の准教授2名による講義を受講し、最新のスマート農業の動向について知識を深めた。また、スマート農業機械(5機種)を操作演習する実践的な研修を受講した。

近年の米価下落に鑑み、従来の一袋30kgでの玄米販売に加え、消費者ニーズを考慮した

一袋 3 kg 及び 10 kg の精米販売を実施した。また、本県のオリジナル水稲品種「福、笑い」の栽培や、米穀業者と連携した大阪の米穀店で本校産米の実演販売にも取り組んだ。

直売実習等で販売している、本校産小麦を使用した乾麺「アグリカレッジ福島うどんだばい」については、消費者の意見を反映させた少量販売に取り組んだ。

1 学年では、実習における多くの食用作物の栽培や加工を通して、基礎的な技術、観察力などを身に付けた。また、県内・県外研修や先進農家等留学研修により、実践的な経営感覚を養った。

卒業論文については、稲作、畑作の選択制とし、研究で得られた成果を就農後に活用できる課題に取り組むとともに、作物の栽培や調査研究を通して、高度な技術と経営感覚を醸成した。

学生の進路については、2 年生 15 名のうち 8 名が卒業後に就農した(親元就農 6 名、法人就農 2 名)。

(イ) 野菜経営学科

1 学年は、県内での栽培が盛んなキュウリやトマト、アスパラガス等の栽培の基礎を学ぶとともに、スマート農業、環境制御技術等の最新の農業技術などについても学習し、知識技術を高めた。また、県内先進農家において長期研修を行い、優れた技術や経営について学んだ。

2 学年は、産地の課題解決や高収益生産などの卒業論文調査研究に取り組むとともに、6 回開催した直売実習や、JR 日暮里駅、福島空港において学生が生産物を消費者に直接販売するなど、高度な栽培技術の習得や経営実践力を養った。また、農業に係る優良事例について自ら企画して現地で視察・調査を行い、知識や技術を高めた。

JGAP 及び FGAP の認証を取得しているトマト、キュウリにおいて、リスク評価や管理作業及び収穫の記録作成等の実践が学生に定着するとともに、更新審査の準備、事前の模擬審査については学生とともに受験した。

(ウ) 果樹経営学科

既に JGAP、FGAP の認証品目である「ぶどう」「かき」部門において、学生主体の実践活動が定着した。特に、経験の浅い 1 年生に対し、2 年生が分かりやすく指導、助言するなど、学生間での技術の伝承が進み、GAP に対する意識は大きく向上した。

果樹の生育状況は、春先の好天により、開花時期が平年より 5~7 日程度早まったが、以後の適期管理により、高品質果実の生産が実現できたとともに、卒業論文調査研究も内容の濃い取りまとめができた。

さらに、生産物すべての販売を学生が主体となって担うことにより、全量販売した後の充実感を味わうことができたほか、新たな顧客の獲得により、従前と比較し、安定的な販売活動を行えることも実感し、農業経営における顧客管理の重要性も体感することができた。

学生の進路については、2 年生 6 名のうち 1 名が自家就農した。

(エ) 花き経営学科

花き経営の基礎である栽培管理については、各栽培品目共に順調に生育し、計画どおりの生産・販売を行うことができた。特に夏秋ギクでは、早朝からの収穫実習、シクラメンでは校外の事業所等への直接販売の実習など、学生自ら生産から販売までより実践的な学習を行うことにより技術力や販売力の強化につなげた。

また、県内の先進農家や市場、県外の農業関係展示会への視察研修を行うなど、高度な栽培技術や先進的な経営感覚を実際に体験し、花き経営への理解を深めることができた。

GAP 取組の一環としては、令和 3 年度に取得した「花き日持ち品質管理認証」について継続認定を受けるとともに、認証シールを作成し、シュッコンカスミソウの販売時に添付するなど、学生は花きの日持ち性向上の意義を認識し、実習に取り組んだ。

学生の進路については、2 年生 6 名のうち 1 名が法人就農した。

(オ) 畜産経営学科

授業や実習を通して、乳用牛や肉用牛に関する知識や飼養管理技術の習得に努めた。特に昨年度作成した飼養衛生管理マニュアルに基づき、学生自らが衛生管理対策を実施し記録できる体制を整え、衛生管理に対する意識付けと理解を深めることができた。また、責任分担制の下、学生当番による分娩予定牛の観察や休日の飼養管理を実施させることにより責任を持って管理するという意識醸成を図った。

校外活動では、子牛セリ市場への参加や全国和牛共進会のオンライン視聴等を研修として実施した。

学生の進路については、2 年生 11 名のうち 7 名が法人等へ就農した。

- (カ) その他特徴的な取組
- a 福島大学食農学類との連携の具現化（本校教育への支援、福大生実習受け入れ、学生の交流活動、他）
- 深山陽子 准教授 校内プロジェクト発表会指導・講評 1、2年
 スマート農業(窪田陽介准教授「スマート農業の概論」)
 (渡邊芳倫准教授「スマート農業と環境保全型農業の取組」)
- 本校職員、福島大学食農学類准教授2名によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー(ヤンマーアグリジャパン(株))と連携し、スマート農業機械(5機種)を操作演習する研修を実施した。
- b GAPの取組
- (a) GAP概論の開講
 本校職員、環境保全農業課職員、GAP・ITサポート合同会社佐久間氏を講師として、GAP概論を実施した。講座では、GAPの基本理念や本県での取組状況の説明、グループ作業、本校農場における取組状況の見学等を行い、GAPに関する理解を深めた。
- (b) GAPに関しての本校の方針
 福島県GAP推進基本方針の改定に合わせて、農業短期大学校GAP推進方針を改定した(令和5年2月6日)。
- (c) GAP更新審査に向けた学生指導の強化及びマニュアルの作成
 更新審査に向けて模擬審査を実施し、学生に審査の流れや書類の内容を把握させるとともに、農場審査に対する準備を実施させた。学生は、更新審査にも立ち会い審査作業の補助等を行うことで、審査への理解を深めた。
- JGAP認証品目 水田経営学科 米(玄米)、そば、小麦
 野菜経営学科 トマト、きゅうり
 果樹経営学科 ぶどう、かき
- *認証品目追加：令和4年8月25日「小麦」
- (d) FGAP追加認証の維持
 令和2年度末に認証を取得したふくしま県GAP(FGAP)の更新認証を受けた(令和4年4月14日)。
- (e) JGAP指導員資格取得 2年生7名、1年生3名
- (f) 三重県農業大学校とのGAP交流
 コロナ禍でオンライン交流となっていた交流会については、三重県農業大学校が本校に来校し、3年振りに直接交流の形で実施した。交流会では、GAPの取組や学生自治会活動に関する情報、意見交換と、両校の農産物を直売実習で販売する直売交流を行った。
- (g) 花き日持ち品質管理認証(令和3年12月1日取得)
 認証シールを作成し、認証取得品目である宿根カスミソウの販売時に添付し、日持ち認証に対する意識の向上及びPRを図った。
- c スマート農業に係る人材育成(教職員の技術習得、研修講座開設)
- (a) スマート農業実践の開講
 本校職員、福島大学食農学類准教授2名によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー(ヤンマーアグリジャパン(株))と連携し、スマート農業機械(5機種)を操作演習する研修を実施した。
- d 地域との連携
- (a) 農業体験の受入(認定こども園ポプラの木、中島幼稚園)
- (b) 矢吹町と本校との連携協定による取組(矢吹中学校職場体験の受入)
- (c) インターンシップの受入(安積高校探求活動、白河実業高校施設見学)
- (d) ドローン安全講習会
- (e) 物産販売施設の経営強化研修会
- (f) JA東西しらかわとの連携協定
 地域農業の発展と就農する担い手の確保(米の提供について)
- (g) 矢吹町広報誌に毎月本校学生の紹介が掲載
- e 販売活動
- (a) 三重農大との交流
 GAP取組を通じて交流を実施している三重農大産の煎茶等を、本校直売実習で本校学生が販売(令和4年7月22日)、三重農大学生が来校し本校直売実習で三重農大産煎茶、トマトジュース、温州みかん等を販売(令和4年11月2日)。
- (b) 大阪の米穀店において本校産米の店舗実演販売
 米穀業者と連携し、大阪の米穀店において本校産米の店舗実演販売を実施した(令和5年1月12日、セブンパーク天美内つながるおこめ)。
- (c) 福島空港
 「2022 福島空港空の日フェスティバル」に初出展し、本校産農産物等を本校学生が販売(令和4年9月17日、福島空港ターミナルビル)。
- (d) JR日暮里駅
 日暮里エキキュートにおいて開催された福島県物産展において、本校産きゅうり、ト

- マトを本校学生が販売(令和4年6月24日)。
- (e) 福、笑いの販売
本県のオリジナル水稲品種「福、笑い」の栽培研究会『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として、「福、笑い」の栽培に取り組んだ。本校産「福、笑い」は、あだたらの里直売所等で販売された。
- f 情報発信
- (a) テレビ・ラジオによる学生募集案内
(b) 県の公式 Twitter への学生募集掲載
(c) 学校紹介動画の作成
(d) FTVテレレポートプラスに出演
斎藤恭紀気象予報士のコーナーに2学年4名が出演し、本校概要や野菜、果物、切り花のPRを行った(7月29日)。
- (e) ラジオ取材でタレントの「なすび」さん来校
ラジオ福島「帰ってきた!進め!GAP探検隊」の取材で、タレントの「なすび」さんが来校した。学生は、GAPの取組状況や卒業後の進路について取材を受けた。
- (f) 「ふくしま花フェスプロジェクト2022」(地域経済産業活性化対策)の取組に参加し
花き生産者のほ場で学生が収穫体験等を行う様子がYouTubeで配信された。
- g 学生募集(新たな取組)
- (a) 県外(東京、千葉、埼玉、栃木、茨城)への学校要覧の送付
近隣県より学生募集があるため、情報提供を実施した。
(b) 通信制、定時制への学校訪問
近年、通信制、定時制からの学生応募が増加しているため実施した。
(c) 県外高校への訪問
東京都の農業高校への訪問を実施(毎年農業を志し、県外に出る生徒がいる)。
(d) 日本語学校への訪問
留学生の受入を検討中。ベトナムなど農業国であるため需要が多い。
(e) オープンキャンパスの時間短縮
県外からの参加者、天候などを考え内容を詰めて午前中開催とした。
- h 統合事業関係
「令和4年度福島県特定原子力施設交付金事業」を活用して新たなパイプハウスを3棟新設し、長期就農研修生受け入れ強化を図った。
- i その他
- (a) 料理研究家「栗原はるみ」さん来校
栗原氏が出演したNHK「みんなのきょうの料理」インスタライブ(3/11、日本橋ふくしま館)に食材を提供した本校への御礼と、視察のため来校。本校概要説明後、学生案内で野菜ほ場等を見学した(4/23)。
(b) 「夢っぺ行ってこっせ・牛編①」への出演
本県出身の箭内夢菜さんが、県産の農畜水産物の魅力を伝えるYouTube番組に、学生と職員が出演した。今回は、「福島牛」の魅力を生産者の視点で紹介する内容で、箭内夢菜さんと引地洋輔さん(本県出身)が、就農予定の学生2名とともに、肉用牛の飼養管理を体験した。当番組は東京電力ホールディングスが復興支援活動の一環として配信された。
- ウ 進路指導の取組
- (ア) 就農への誘導
進路状況47名(98%)が決定し、1名(2%)が未定であった。内訳は就農20名(42%)、農協7名(15%)、農業関連産業15名(31%)、他産業3名(6%)、公務員2名(4%)であり、就農率は過去最高であった前年度とほぼ同じとなった。
- a 令和3年度から就農支援サポート支援員(1名)を配置し、新規就農にかかる支援体制の充実、強化を図っている。県内の農業法人や各市町村、各農林事務所との連携を図り、親元就農に向けた準備支援や、雇用就農者を増やすため、農業法人の求人に関する意識調査、農業法人と学生とのマッチング、学生との個別相談、就農相談会開催の取組を行った。
- b 2学年を対象に、農業法人等についての理解を深め、将来の就農先としての位置づけを図るため、県内の法人等に関する説明会及び講座を3回開催した。
- c 県内研修を活用し、現地において農業の復興に取り組む農業法人や技術革新に取り組む意欲的な法人において研修を実施した。
- d 農林事務所との連携を強化し、相双農林事務所の本校1学年を対象とする就農相談会に参加した。
- e 1学年を対象に南相馬市による農業及び農業法人の説明会を実施した。また、市担当者との個別就農相談も実施し、3名が参加した。
- (イ) 進路に対する意識付けと支援
- a 1学年の5月と1月に、進路希望調査を実施した。
- b 学生に進路に対する目的意識を強く持たせるとともに、就職を希望する学生に対しては就職活動における心構えを、また、自家就農を希望する学生には雇用する立場となる経営者としての資質向上が図られるよう、定期的に進路指導会を開催した。

c ハローワーク白河の学卒ジョブサポーターとの連携の下、1学年への就職相談会を1回開催し、10名の学生が就職に関する面談を行った。

(ウ) 資格取得支援

- a 大型特殊免許（農耕車に限る）
2年生 34名が免許を取得した。
- b けん引運転免許（農耕車に限る）
2年生 32人が免許を取得した。
- c 毒物劇物取扱者
1年生 1名が資格を取得した。
- d 刈払機取扱作業安全衛生教育 1年生 39名受講
- e アーク溶接業務特別教育 1年生 24名受講
- f 家畜人工授精師
畜産経営学科 2年生 10名が資格を取得した。
- g 土壌医検定
3級を1年生 3名が受験し、うち2名が合格した。
- h 日本農業技術検定試験
1級を1年生 1名が受験し合格した。

(エ) 令和4年度卒業者の主な進路

卒業生の進路は、親元就農9名（経営分野は水稲6名、野菜2名、果樹1名）、雇用就農11名、農業協同組合7名、農業関連産業（農畜産物流通業等）15名、公務員2名であった。

(オ) 農業次世代人材投資資金の活用

- a 農業次世代人材投資資金（準備型）は、就農を希望する青年が農業技術及び経営ノウハウの習得のための長期の研修実施を支援する制度で、交付金が年額150万円で最長2年間交付される。本校農業経営部の学生と研修部長期研修の研修生が交付要件を満たす研修として位置づけられている。2学年3名、1学年6名、長期就農研修生3名が受給した。
- b 本制度を活用した2学年の就農分野は、親元就農1名、雇用就農2名であった。

エ 学生募集の取組

(ア) 募集要項等の送付

募集要項等を高等学校153校、県の43機関、59市町村、19団体に送付し、募集への協力を依頼した。

(イ) 高校訪問他

県内の高校101校を訪問し、進路担当教員に対して、本校の概要及び募集について説明するとともに生徒の進路希望状況について調査した。加えて県外高校5校に訪問した。また、新たな取組として日本語学校、留学生を取り入れている専門学校への訪問を実施した。

(ウ) 進路説明会への参加

高等学校主催の説明会26校延べ34校に参加し、本校の概要等について説明した。今年度から郡山、会津、白河会場での進学相談会に参加した。

(エ) オープンキャンパスの開催

7月24日（日）、7月30日（土）、8月3日（水）にオープンキャンパスを開催し、本校の施設及び講義内容等について説明した。41校74名の高校生等及び74名の保護者が参加した。案内は高等学校116校、59市町村、農林水産部の16機関、2団体に送付し、協力を依頼した。

(オ) 県広報の活用

広報課30秒スポット放送9回、キビタンスマイル（ふくしまFM）3回、農家の皆さんへ（ラジオ福島）1回、農業総合センターだよりに学生募集の案内を掲載した。

(カ) 学校見学の受け入れ

県立高校2校の生徒52名、教員4名が来校し、農業の現状に関する施設・設備の見学及び教育内容の説明を行った。

(キ) 募集結果は、推薦入校試験受験者44名、一般入校試験（前期）受験者12名、一般入校試験（後期）受験者6名の計62名が受験をし、62名が合格となった。

才 学生数

(ア) 学科別

※入校時

学 科	1年			2年			計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
水田経営学科	12	1	13	13	2	15	25	3	28
野菜経営学科	8	7	15	8	2	10	16	9	25
果樹経営学科	3	3	6	4	2	6	7	5	12
花き経営学科	2	0	2	3	3	6	5	3	8
畜産経営学科	6	3	9	7	4	11	13	7	20
計	31	14	45	35	13	48	66	27	93

(イ) 農家、非農家別

※入校時

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
専業	8	18	11	23	19	20
農家 兼業	10	22	16	33	26	28
計	18	40	27	56	45	48
非農家	27	60	21	44	48	52
合計	45	—	48	—	93	—

(ウ) 出身高校課程別

※入校時

	1学年		2学年		合計	
	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)	学生数(名)	割合(%)
農業高校	31	69	31	59	62	67
普通高校	8	23	11	19	19	20
その他	6	13	6	22	22	13
合計	45	—	48	—	93	—

カ 教育科目

区分	科目名	単位数	授業時間数				授業回数(時限数)			
			講義	演習	実験	実習	1学年		2学年	
							前期	後期	前期	後期
共通 教養科目	全 学 科 共 通	生物基礎	1	15			7			
		化学基礎	1	15			7			
		数学基礎	1	15			7			
		国語表現Ⅰ	1	15			7			
		国語表現Ⅱ	1	15				7		
		国語表現Ⅲ	1	15					7	
		人間と社会	1	15					7	
		体育	4	60			14	6	7	3
		教養講座	1	15			3	4		
		就農講座Ⅰ	2	30				14		
		農業法人等就職講座Ⅰ								
		就農講座Ⅱ	1	15					7	
		農業法人等就職講座Ⅱ								
① 小計	15	225	0	0	45	31	28	3		
共通 専 門 科 目	全 学 科 共 通	農業経営	2	30					14	
		農業経営演習	2	30						14
		農業法規	2	30						14
		農業関連産業論	1	15			5	2		
		簿記概論	3	45			22			
		農業情報処理基礎	2	30				14		
		農業情報処理応用	1	15						7
		農業情勢Ⅰ	1	15					7	
		農業情勢Ⅱ	1	15						7
		土壌肥料概論	2	30			14			
		農業機械	2	30			14			
		農業機械基礎実習	1			45	6	16		
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			22	

区分	科目名	単位数	授業時間数			授業回数(時限数)					
			講義・演習	実験	実習	1学年		2学年			
						前期	後期	前期	後期		
共通専門科目	マーケティング論	1	15					7			
	マーケティング演習	2	30						14		
	食品製造	1	15				7				
	スマート農業実践	1	15				7				
	GAP 概論	1	15			7					
	卒業論文	10	150				15	30	30		
	簿記検定講座*	2	30				14				
	毒物・劇物取扱解説*	1	15			7					
	毒物劇物取扱者資格講座*	1	15			7					
	農業機械操作実習Ⅱ*	1			45						
	② 小計 (*自由選択科目を除く)	37	525	0	90	68	61	80	86		
専門科目	水田野菜果樹花き学科共通	農業概論	2	30			14				
		作物保護	2	30				14			
		植物生理	1	15			7				
		環境保全と農業	2	30					14		
		有機農業	1	15					7		
		農産物流通	1	15						7	
		農学実験	1		30		8	6			
		③ 小計	10	135	30	0	29	20	7	21	
		水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44			
			水田経営研修	2			90	10	12	19	4
	作物経営実習		25			1125	140	130	195	97	
	水田経営基礎		2	30			14				
	水田経営応用		2	30				14			
	水田経営実践		2	30					7	7	
	食品製造演習		2	30				14			
	④-1 小計		40	120	0	1440	208	170	221	108	
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44				
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	4	
		野菜経営実習	25			1125	140	130	195	97	
		野菜生産概論	2	30			14				
		野菜栽培各論	2	30				14			
		野菜経営各論	2	30					7	7	
		食品製造演習	2	30				14			
		④-2 小計	40	120	0	1440	208	170	221	108	
	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44				
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4	
		果樹経営実習	25			1125	140	130	195	97	
		果樹生産概論	2	30			14				
果樹栽培各論		2	30				14				
果樹経営各論		2	30					7	7		
食品製造演習		2	30				14				
④-3 小計		40	120	0	1440	208	170	221	108		
花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	44					
	花き経営研修	2			90	10	12	19	4		
	花き経営実習	25			1125	140	130	195	97		
	花き生産概論	2	30			14					
	花き栽培各論	2	30				14				
	花き経営各論	2	30					7	7		
	フラワー装飾演習	2	30				14				
	④-4 小計	40	120	0	1440	208	170	221	108		
水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計(①、②、③、④)		102	1005	30	1530	350	282	336	218		

区分	科目名	単位数	授業時間数			授業回数(時限数)				
			講義・演習	実験	実習	1学年		2学年		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15		7				
		家畜育種学	1	15			7			
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15			7			
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30					14	
		家畜栄養学	1	15			7			
		家畜衛生学	1	15					7	
		畜産環境保全	1	15					7	
		家畜解剖生理学	1	15			7			
		家畜解剖実験	1		30		14			
		先進農家等留学研修	5			225	44			
		畜産経営研修	2			90	10	12	19	4
		畜産経営実習	25			1125	132	138	188	104
		乳用牛・肉用牛概論	2	30			14			
		飼料作物	1	15						7
		食品製造演習	2	30				14		
		乳用牛飼養管理技術応用	2	30				14		
		肉用牛飼養管理技術応用								
		乳用牛経営	1	15						7
		肉用牛経営								
⑤ 小計	50	255	30	1440	235	192	235	122		
畜産経営学科 必修科目合計(①、②、⑤)		102	1005	30	1530	348	284	343	211	

履修科目 (必修科目 102 単位、自由選択科目 5 単位の合計)	107	1065	30	1575	660	576
---	-----	------	----	------	-----	-----

キ 非常勤講師一覧

	科目	講師名	所属・職・機関
共通 教養 科目	全 学 科 共 通	化学基礎	柳沼力夫 元日本大学非常勤講師
		国語表現Ⅰ	國分進 ケイセンビジネス公務員カレッジ講師
		国語表現Ⅱ	國分進 ケイセンビジネス公務員カレッジ講師
		国語表現Ⅲ	國分進 ケイセンビジネス公務員カレッジ講師
		体育	高萩孝平 元高等学校教員
		農業経営演習	三部吉久 税理士法人三部会計事務所
		農業法規	本庁職員 福島県庁
共通 専門 科目	全 学 科 共 通	農業関連産業論	担当職員 福島県林業研究センター 福島県農業協同組合中央会 福島県農業共済組合
		簿記概論	居川陽明 税理士法人イカワ会計副所長
		農業情報処理基礎	志間幸恵 シップスパコンスクール
		農業情報処理応用	志間幸恵 シップスパコンスクール
		農業情勢Ⅱ	本庁職員 福島県庁
		土壌肥料概論	佐藤紀男 元県職員
		マーケティング論	西元良行 福島大学名誉教授
		マーケティング演習	西元良行 福島大学名誉教授
		食品製造	郡司尚子 郡山女子大学准教授
		(自由選択) 簿記検定講座	居川陽明 税理士法人イカワ会計副所長
		(自由選択) 毒物・劇物取扱解説	柳沼力夫 元日本大学非常勤講師

	科目	講師名	所属・職・機関
専 門 科 目	作物保護	佐々木正剛	福島県植物防疫協会
	環境保全と農業	佐藤紀男	元県職員
	農産物流通	津谷好人	宇都宮大学名誉教授
	フラワー装飾演習	中村良美	フラワースタジオ POCO A POCO 主宰
	家畜育種学	國分洋一	元県職員
	家畜栄養学	土屋友充	元県職員
	家畜衛生学	担当職員	中央家畜保健衛生所
	家畜解剖生理学	二瓶由佳	元県職員
	家畜解剖実験	担当職員	中央家畜保健衛生所
	飼料作物	土屋友充	元県職員

ク 教育行事

月 日	行 事 名
令和 4年 4月 7日	始業式
9日	入校式
12日	学生健康診断・オリエンテーション
22日	防災避難訓練
26日	スポーツ大会(学生自治会、寮自治会主催)
18日	卒業論文設計発表会
6月 8日	植付け祭
6月22日～ 7月 5日	先進農家等留学研修(前期)
17日	直売実習(1回目)
7月15日	学校記念日
22日	直売実習(2回目)
25日	オープンキャンパス(1回目)
30日	オープンキャンパス(2回目)
8月 3日	オープンキャンパス(3回目)
5日	直売実習(3回目)
6日～21日	夏期休業
24日～ 9月 7日	先進農家等留学研修(後期)
9月 7日	毒物劇物取扱者資格試験
22日	直売実習(4回目)
27日～30日	前期試験(1・2学年)
10月 3日	後期授業開始
15日～16日	榊隆祭
11月 2日	直売実習(5回目)
15日	校内意見発表(1学年)
16日	防災避難訓練
10日～11日	収穫祭(10日のみ)、球技大会(学生自治会、寮自治会主催)
20日	日商簿記検定試験
25日	直売実習(6回目)
12月 1日	卒業論文発表会
10日	日本農業技術検定
17日～ 1月10日	冬季休業
令和 5年 1月17日～18日	東日本農業大学校等プロジェクト発表・交換大会(記録動画)
23日～24日	後期試験(2学年)
23日～ 2 22日	家畜人工授精に関する講習会
12日	土壌医検定試験
2月13日～14日	後期試験(1学年)
26日	日商簿記検定試験
3月 2日	卒業記念講演会 (講師：幡谷明里氏「農家出身アナが見た新時代の農業」)
3月 9日	卒業式
17日	終業式
18日～ 4月 6日	春期休業 海外農業研修の開催は中止

ク 各種表彰者

月 日	行事名	結 果
令和4年11月15日	校内意見発表会	最優秀 水田経営学科1年 今野 幸弥 「地元南相馬での稲作・畑作農家を目指して」 優 秀 水田経営学科1年 桑島 大智 「私の農業(ゆめ)」 優 秀 畜産経営学科1年 古家 和音 「じゃーお君がくれた私の目標」
令和4年12月5日	第50回毎日農業記録賞	優秀賞 畜産経営学科1年 諸根 こはる 「父の背中を追いかけて」
令和4年12月7日	校内卒業論文発表会	最優秀 野菜経営学科2年 竹島 和輝 「春ブロッコリー作付けによるナス半身萎凋病の発病抑制技術の有用性に関する検討」 優 秀 水田経営学科2年 田村 芽衣 「「べにはるか」の直売用途における最適栽培日数について」 優 秀 花き経営学科2年 矢口 陽菜 「セル苗定植が宿根カスミソウの生育と収量に及ぼす影響」

ケ 卒業生の進路状況(令和5年3月1日現在)

進 路		農業経営部
就 農	自家	9
	法人	11
	研修	0
	小計	20
非就農	農協	7
	農業団体	0
	農業関連産業	15
	他産業	3
	公務員	2
	進学	0
	小計	27
未定		1
合 計		48

(3) 研修部の取組

ア 研修実施状況

就農研修は就農希望者や新規就農者の技術習得を目的として初級・中級コースを設け、受講希望者のレベルに応じた体系により実施した。

長期就農研修は就農希望者が就農後の農業経営を早期に安定できるよう、1年を単位とした実習主体の研修として実施した。

初級、中級、長期研修の実施により、初級1名、中級4名、長期就農研修9名(内果樹6名)計14名の新規就農者を確保した。

また、「令和4年度福島特定原子力施設地域交付金事業」を活用し、新たにパイプハウス3棟を増設して長期就農研修生受け入れ強化を図った。

農産加工研修は、加工初心者を対象とした「基礎コース(全4回継続参加)」を年2回開催し農産加工に必要な講義を実施した。実際に農産加工品開発を行っている方を対象に「応用コース」を開催し、より高いレベルの商品開発につなげるために実施した。

大型特殊免許及びけん引免許(いずれも農耕車限定)の取得支援を目的とした「安全運転技術総合コース」、農業機械の基本操作や点検整備、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業を学ぶ「技術向上コース」、農作業の安全対策を学ぶ「農作業安全推進コース」を実施した。新規就農者から認定農業者まで受講者のレベルに応じた指導を行った。

施設利用研修として、就農、農産加工、農業機械の各研修体系の中にも組み入れ実施するとともに、農作業安全に関する研修は現地の要請に応じ実施した。

イ 研修実績
 (ア) 就農研修

a 初級

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 春コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習 ・農業機械体験実習	就農予定(希望)者 15名	15名	6~8月(6日) (日曜日開催)
(b) 秋コース	[講義]・栽培のための基礎知識 ・営農に係る基礎知識 [実習]・栽培管理実習 ・農業機械体験実習		14名	8~11月(6日) (日曜日開催)

b 中級

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 中級	[講義、演習、見学] 必修科目: 土壌肥料 農業経営、農業機械、鳥獣害対策 選択科目: 水稲、野菜、果樹、花き、畜産、有機農業	就農予定者及び就農者 15名	15名	6~12月 (必修科目10日) (選択科目各4日) (平日開催)

c 長期就農研修

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間
(a) 長期就農研修	[実習、講義] 栽培管理実習を柱にした1年間の研修 研修科目 施設野菜、露地野菜、果樹、花き、水稲・畑作物 1、畜産、有機栽培 研修場所 農業短期大学校研修部、農業総合センター本部、果樹研究所、畜産研究所、会津地域研究所、浜地域研究所	福島県内で農業により生計を立てることを目標とし、就農前に農業の知識及び技術の習得を目指す者 農業短大枠5名 他若干名	10名 内訳 農業短大 4名 果樹研 6名	令和4年4月 ~ 令和5年3月

d 施設利用研修

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 令和4年度地場産物活用のための作物栽培研修	講義 農作物の基礎、農産物の安全対策・GAPの基礎 実習 竹プランター作り、土作り、施肥、畝立て、マルチ張り、作付け作業、播種(直蒔)、連結ポットを使った苗作り	県北・相双・いわき地区の市町村立小・中学校教諭・栄養教諭	9名	7/29~7/30(2日)

e 研修用ハウス増設

事業名	主な内容	事業量	事業費
農業短期大学校研修用ハウス整備事業	研修希望者の多い施設栽培の強化を図るため、環境制御装置等を実装した栽培施設を整備する。	5.4×18m一式(3棟)	33,550,000

(イ) 農産加工研修

a 基礎 (春コース)

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可について ・栄養表示について	農産物加工販売予定者 15名	15名	5/11(1日)
(b) 殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介について			5/25(1日)
(c) 瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法			6/ 8(1日)
(d) 事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営について			6/22(1日)

b 基礎 (秋コース)

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 営業許可と食品表示	・衛生管理、食品営業許可について ・栄養表示について	農産物加工販売予定者 15名	15名	10/ 5(1日)
(b) 殺菌と包装	・食品の殺菌方法 ・6次化に関する補助事業等の紹介について			10/19(1日)
(c) 瓶詰め・袋詰め食品	・瓶詰め・袋詰めの加工方法			11/ 2(1日)
(d) 事例紹介	・優良農産加工者による事例紹介 ・加工所運営について			11/16(1日)

c 応用

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 加工技術応用	・新商品づくりについて ・食品の殺菌方法	農産物加工販売者15名	15名	8/31(1日)

d 施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期間(日数)
(a) 農産加工	福島県農産物加工者連絡協議会全体研修	福島県農産物加工者連絡協議会	17名	6/ 1(1日)
	かぼちゃ加工	株式会社奥会津金山大自然	1名	6/28(1日)
	令和4年度第1回技術で支える加工研修	加工業者	16名	8/ 4(1日)
	令和4年度地場産物活用のための作物栽培研修	県北・相双・いわき地区の市町村立小・中・義務教育学校 教諭・栄養教諭	12名	8/ 9(1日)
	職場体験「農産物の加工」	矢吹町立矢吹中学校	9名	9/14(1日)
	きゅうり漬けの袋詰めの常温販売	亀石ファーマーズ	2名	10/17(1日)
	発酵調味料の瓶詰めと袋詰めの常温販売	NP0法人勿来まちづくりサポートセンター交流スペースなっくる	2名	12/ 7(1日)
	いちご加工	鮫川村農林商工課	1名	12/ 9(1日)
	小豆の缶詰め	ゆめねっと福	1名	2/ 1(1日)

(ウ) 農業機械研修

a 安全運転技術総合コース

名称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) けん引操作 (農耕車限定)	・けん引免許(農耕車限定)取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等 各10名	10名 10名 10名 10名 10名 10名 8名	第1回 5/24~ 5/26(3日) 第2回 5/31~ 6/ 2(3日) 第3回 6/ 7~ 6/ 9(3日) 第4回 6/14~ 6/16(3日) 第5回 6/21~ 6/23(3日) 第6回 6/28~ 6/30(3日) 第7回 7/ 5~ 7/ 7(3日)
(b) 大型特殊操作 (農耕車限定)	・大型特殊免許(農耕車限定)取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得	農業者等 各10名	9名 9名 10名 9名 9名	第1回 10/18~10/20(3日) 第2回 10/25~10/27(3日) 第3回 10/31~11/ 2(3日) 第4回 11/15~11/17(3日) 第5回 11/29~12/ 1(3日)

b 技術向上コース

名 称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 初めての刈払機	・刈払機の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等 各8名	8名 8名	第1回 5/19 (1日) 第2回 9/ 1 (1日)
(b) 初めての農業機械整備	・農業機械(トラクタ、刈払機、管理機)の点検整備	農業者等 各8名	8名 4名	第1回 7/28 (1日) 第2回 1/12 (1日)
(c) スマート農業(ドローン研修)	・ドローンの基本知識及び飛行操作体験	農業者等 各15名	7名 6名	第1回 9/ 7(半日) 第2回 9/ 7(半日)
(d) 初めてのアーク溶接	・アーク溶接の基礎知識 ・基本操作の習得	農業者等 10名	10名	9/14~ 9/15(2日)
(e) トラクタ操作技術向上	・トラクタの基本操作 ・ロータリ耕 ・点検整備	農業者等 10名	10名	11/10~11/11(2日)
(f) スマート農業	・自動操舵システムの体験 ・ドローンの飛行操作体験	農業者等 20名	5名	12/ 6~12/ 7(2日)
(g) 田植機の整備点検	・整備点検技術の習得	農業者等 10名	7名	2/ 7~ 2/ 8(2日)

c 農作業安全推進コース

名 称	主な内容	対象者及び定員	受講者数	期間(日数)
(a) 農作業安全	・農作業事故の現状と課題 ・農業機械の安全対策	農業者、関係機関、団体職員等 20名	3名	3/2(1日)
(b) 現地支援研修 現地で学ぶ農作業安全	・農作業事故の現状 ・農業機械の安全対策	中島村・川原田地区 中島村 南相馬市・鶴谷地区 矢吹町・弥栄地区 石川町・JA夢みなみ 福島市・県北農林事務所 本宮市・福島県酪農協 南相馬市・相双農林事務所	28名 28名 25名 18名 26名 18名 12名 23名	4/23(1日) 5/27(1日) 5/29(1日) 6/ 5(1日) 9/27(1日) 11/18(1日) 11/22(1日) 2/ 1(1日)

d 施設利用研修

名称	主な内容	対象者	受講者数	期 間(日数)
(a) 農業機械	トラクタ免許	郡山園芸振興センター	3名	10/ 3～ 4(2日)
	けん引運転免許	郡山園芸振興センター	5名	12/12～13,16 (3日)
	専門技術向上研修	普及指導員	12名	6/17(1日)
	農作業安全研修	郡山園芸振興センター	5名	9/22(1日)

2 福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催

大学校が適切かつ円滑に運営されるよう、大学校の教育・研修等の基本的事項について、県内各層の意見を徴し、助言を求めるため設置。令和2年度からは学校教育法に基づく学校関係者評価委員会を兼ねる。

(1) 農業短期大学校運営会議の開催

開催日	開催場所	テ ー マ
令和5年 2月24日	農業総合センター 農業短期大学校教養ホール	1 令和4年度の教育実績 2 学校評価 3 令和5年度の教育内容 4 学生の活動紹介（映像による学校・学科紹介） 5 意見交換

(2) 運営会議委員（敬称略）

氏名	所属・役職名等
鈴木 光一	福島県指導農業士会 会長
中田 幸司	うつくしまふくしま農業法人協会
鈴木 正洋	福島県農業会議 担い手・経営対策部長
紺野 明宏	福島県農業協同組合中央会 人材育成部長
菅野 雅敏	就農支援センター 所長
安田 修久	福島県高等学校教育研究会農業部会 部会長
新田 洋司	福島大学 教授
柳沼 力夫	大学校外来講師
鈴木 敏子	農業短期大学校後援会 会長
小沢 充博	農業短期大学校同窓会 会長
竹内 孝重	農業担い手課 課長